

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

防衛医科大学校下部消化管外科での研修を終えて

奈良県立医科大学消化器・総合外科

岩佐 陽介

この度、臨床外科学会奈良県支部の推薦を受け、2023年9月25日から10月6日まで防衛医科大学校下部消化管外科で研修させていただきましたので、御報告申し上げます。

私は平成23年卒業で、これまでの奈良県立医科大学の関連施設で研修後、本学において臨床・研究に従事して参りました。臨床においては、下部消化管の診断・治療を専門的に従事しています。私は6年前に本学に異動後、これまで自施設のエビデンスを検討し学会で報告する際に、他施設からの報告を拝聴し勉強するにつれ、他施設での臨床・研究に興味を持つようになり、今回、他施設での外科研修という貴重な機会をいただきましたので、臨床・研究両面において業績の優れた防衛医科大学校に応募いたしました。お忙しい中研修を受け入れていただき、下部消化管外科の上野秀樹教授をはじめ、医局の皆様感謝申し上げます。

まず、毎週のカンファレンスで手術予定の患者さんの報告があるだけでなく、毎朝のカンファレンスでは前日の手術報告を行い、術後のフィードバックも全例行っているだけでなく、前日の外来や当直の報告と共に治療方針のディスカッションが行われており、きめ細やかな情報共有や指導が行われている点が非常に勉強になりました。特に、手術内容に関するディスカッションが手術翌日に行える点は、手術手技向上には非常に有益と感じました。今回、下部消化管の手術を中心に見学をさせていただきました。下部消化管の手術は平日ほぼ毎日のようにあり、手術術式も多岐にわたります。根治性が期待される場合は再発巣切除における他臓器合併切除を含め拡大手術も積極的に行われていました。開腹手術も腹腔鏡手術も見学させていただきましたが、どちらの手術においても非常に精緻な手術を実践されていました。また、もう一つ感じたこととしては、確立された指導体制の下、後輩医師への充実した教育が行われていることでした。病院で皆様と接していると忘れてしまいますが、防衛医科大学校の先生方は医師だけでなく自衛官という立場の先生方であり、各部隊における診療・活動の期間が存在するため、専修生として外科診療に携われる期間における修練が、外科医としては非常に重要であるとお伺いしました。そして、そのような「限られた」期間内に技術を向上させたいというモチベーションに応えるように、指導医の先生方が術前検討をベースにした、コンセプトを持った手術を完遂できるように指導しておられました。また、地域の中核病院の一つであり、緊急手術の依頼も多く、専門性に関わらず様々な手術を対応しておられたことも非常に印象的でした。

研修期間中は臨床のみではなく、研究に関しても勉強させていただきました。防衛医科大学校下部消化管外科は、これまで腫瘍の先進部や先進部の癌間質における病理組織の特徴的所見（desmoplastic reaction, poorly differentiated cluster, tumor budding等）が予後に影響することを詳細に報告されており、現在では世界的に広く知られた大腸癌における重要な因子と位置付けられています。研修中、梶原准教授に病理スライドを見ながらそれぞれの因子を御教授いただき、また自分でスライドを検討して学習させていただきました。また、自分で検討した病理像を再度一緒にスライドを見ながら勉強させていただきました。大腸癌の病理像に対する知識が一層深まることを実感しましたし、今後の自施設での臨床、研究に非常に参考になりました。また、防衛医科大学校には学位取得のため研究を行っておられる研究科の先生方が在籍されており、消化管外科の研究科の先生方は臨床・研究の中心として精力的に従事さ

れておられました。研究においては、研究科の先生に実験方法のアドバイスや方向性の相談をしてくださる先生もおられ、研究のサポート体制も充実していました。実際に研究科の先生方の研究を見学させていただきただけでなく、研究に関するカンファレンスにも参加させていただきました。研究の進捗状況の報告を下に、参加者全員で研究の目的、手法や結果に対する考察など、微に入り細にわたりディスカッションされているリサーチマインドの高さが非常に印象的でした。臨床も研究も双方において徹底して追求する姿勢で取り組まれていることが、皆様から一番勉強になりました。

また、非常にアットホームな医局であり、皆様の楽しそうな雰囲気を感しながら研修させていただきました。私に対しても、上野教授をはじめ皆様に非常に親切に接していただきました。様々な先生方からお声をかけていただいたり、当科での診療について色々質問いただいたり、様々な交流を図らせていただきました。学ぶことができただけでなく、非常に楽しく2週間研修できたこと、防衛医科大学校の皆様感謝申し上げます。

この度の研修を通して、他施設における研修から学ぶことがたくさんあり、また自施設や自らの診療、研究を見つめ直す良い契機となりました。今後診療していくにあたり、この研修が糧となるように自分で意識し努力していきたいと思っております。

最後になりましたが、この度はこのような貴重な機会を与えていただきました日本臨床外科学会の万代恭嗣会長、国内外科研修委員会の高山忠利委員長、臨床外科学会奈良県支部長の庄 雅之教授をはじめ、学会の委員・スタッフの方々に、心より御礼申し上げます。